

平成29年度 矢掛町立矢掛中学校学校評価書

校長 宮原 良夫

本校のミッション 今日より輝く明日のために ・目的をもって登校できる ・確かな学力を身につける	学級数 12 学級	児童(生徒・園児)数 290 人
	職員数 34 人	家庭数 275 戸
学校関係者評価委員 田中 真秀 (学識経験者・川崎医療福祉大学) 高木 亮 (学識経験者・就実大学) 川上 公一 (学識経験者・前県立矢掛高等学校長) 前川 隆弘 (学識経験者・県立矢掛高等学校長) 檜崎 裕志 (地域住民・学識経験者・矢掛町人権擁護委員・元中学校長) 岩崎 恭子 (地域住民・スクールサポーター) 古城賀津子 (地域住民・学校支援地域コーディネーター) 植田 辰哉 (保護者・矢掛中学校PTA会長)		

A 成果をあげている B ほぼ成果をあげている C あまり成果をあげていない D 成果をあげていない

領域	中期目標	単年度目標	具体的計画	達成基準	自己評価	評価
1	確かな学力	・学力向上を目指した授業改善を図る。 ・総合的な学習の時間を系統性のある取組にする。	・各教科の授業で、電子黒板や指導用デジタル教科書等のICTを効果的に活用する。 ・グループ活動を取り入れ、進んで考えを述べるように支援する。 ・3年間の系統的な取組で、課題設定力や課題追究力、情報活用能力、プレゼンテーション力を育む。	・教員全員がICTを積極的に活用し、わかりやすい授業に努めている。 ・グループ活動を中心に、80%以上の生徒が、授業中に自らの考えを進んで発表している。 ・85%以上の生徒が「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立て、集めた情報を整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	・電子黒板などのICTを効果的に活用した授業を行ったと回答した教員は88%で、教科の特性上、使用頻度が高くない教科があることを考えると、ほとんどの教員が授業で活用できている。 ・91%の教員が「岡山型学習指導のスタンダード」を意識した授業を行っており、生徒の89%は「授業は分かりやすい」と肯定的な回答している結果からも、努力の成果がみられる。 ・91%の教員が、ペアやグループ学習など生徒が意見や考えを伝える場面を多く設定している。生徒も授業の中で「自分の意見や考えを伝える場面がある」と答えている割合が98%である。しかし、「授業中は、自分の意見や考えを進んで発表している」と答えている生徒は63%と昨年度をやや下回っており、活動の取り入れ方やその方法を工夫する必要がある。 ・3年生の全国学力学習状況調査では、87%の生徒が「総合的な学習の時間」に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると答えている。(全国64%、岡山県63%) ・3年間の系統的な計画のもと、積極的に課題解決学習に取り組んでいる様子がよくわかる。また、94%の生徒が「学校行事や総合的な学習の時間に積極的に参加し、充実感を味わっている」と回答している。 ・この結果からみて、「総合的な学習の時間」の取り組みにより、身につく力が生徒にもしっかりと理解できていると考えられる。	A
			・帰りの会でドリル学習(夕学)を行うことで、基礎学力の向上を図る。 ・生活ノートの活用や家庭生活プランニングを指導することで、学習習慣の定着を図る。	・90%以上の生徒が、丁寧に課題やドリル学習に取り組んでいる。 ・80%以上の生徒が、1時間以上家庭学習に取り組んでいる。	・帰りの会のドリル学習(夕学)へは、全校生徒が同じ時間に落ち着いてきちんと取り組んでいる。基礎的な知識や学力の充実が、全ての学習の基盤となるので、今後も継続して取り組んでいく必要がある。 ・10月に実施した学校生活アンケートでは、「家庭学習に1時間以上取り組んでいる」と答えている生徒は65%である。(3年生全国学力学習状況調査 60%、2年生県学力学習状況調査 40%、1年生県学力学習状況調査 74%・・・4月実施) ・家庭学習の改善を目的に、今年度、春より全校で取り組んでいる『新生活ノート』については、66%の生徒が活用して自主学習に取り組んでいると回答。日々の細やかな指導と「学校より」「学年通信」などで保護者への啓発も図りながら、今後も継続した取り組みが必要である。	B
3	支え合う生徒	・支え合える、認め合える、繋がりが合える集団づくりをする。	・良好な学級の雰囲気づくりに努め、生徒の自己肯定感を高める。	・5月のQUアンケート結果よりも学級生活に満足している生徒が増えている。 ・85%以上の生徒が「意見を述べる場面がある」と回答している。	・5月のQUアンケート結果より、学校生活に満足している生徒は1年62%、2年74%、3年64%であり全国平均の37%を大きく上回った。7月の同アンケートでは1年69%、2年80%、3年75%と、5月の結果よりも増えている。 ・「授業の中で、グループで学習する場面がある。」の項目では98%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの授業で話し合いをし、考えを述べ合ったり共有したりする場面が設定されている。一方、「自分の意見や考えをすすんで発表している」の項目になると、肯定的な回答は60%となる。より一層生徒がのびのびと、失敗を恐れず活動できる雰囲気づくりに今後も推進していきたい。 ※多くのグループ活動で話し合い活動が行われており、内容が重複するため、本年度アンケートから「自分の意見や考えをすすんで発表している」の項目はなくなった。	A
			・社会的実践力が身につくようにする。	・90%以上の生徒が、矢掛中学校三つの誇りを意識して実践しようとしている。 ・60%以上の生徒が地域の活動に参加している。	「あいさつができる」89%、「時間を守る」91%、「清掃ができる」92%であった。いずれも生徒の高い意識が伺える。昨年度と比べて、「あいさつ」と「時間」のポイントが下がっているため、意識を高めていく必要がある。 ・「地域の活動に積極的に参加した」と回答した生徒は52%であった。しかし、夏のボランティア活動には昨年度より多い181名の生徒が参加しており、地域行事などを含めると延べ335名が参加している。	B
5	生徒の支援	・学校生活に適応できるように個別的な支援を充実する。	・不登校対策、小中連携の効果的な取組を行うとともに、スクールカウンセラーや外部機関との連携を一層密にする。	・不適応傾向のある生徒について、専門家と連携して支援方針を定め、状況に応じた他機関の援助を得ている。	・不登校の未然防止のために、入学する前に小学校と連携をとり、不登校傾向のある生徒についての情報交換を行い、必要に応じて個別に対応している。また、全生徒に学期ごとの教育相談を実施し、生徒理解に努め、必要に応じてスクールカウンセラーや外部機関と連携をとっている。スクールカウンセラーへの相談件数は、79件である(11月17日現在)。そのうち、不登校に関する相談は30件、友人関係が3件、心身の健康で2件、発達障害で28件、家庭環境で1件、その他15件と、生徒、保護者が抱えている問題について相談できている。今後も連携をとり指導に活かすようにしたい。	B
			・学校に適切にくい生徒への支援を充実する。	・生徒指導の方針を徹底し、学校アドバイザーや関係機関と連携をとり、生徒指導上の課題のある生徒に対応していく。 ・生徒全員が、グッドビヘイビアチケットをもらえるように配慮する。	・現在2、3年生に不登校傾向の生徒がいる。学年団を中心に対応に当たるとともに個別の支援ノートを作り、定期的に職員間で回覧し、情報交換することで学校全体で支援できるようにしている。また、心の教室の支援員や、ひまわりの家、スクールカウンセラーやソーシャルワーカー、スクールサポーターと連携をし、必要に応じてケース会議を開き、個別に支援する方法を協議している。スクールソーシャルパートナーの支援や学校アドバイザーの助言を生かし、落ち着いた学校づくりに取り組んでいる。 ・めざす生徒像の具体的な行動を示し、よい行いのできた生徒にはグッドビヘイビアチケットを渡す取組を全職員で行っている。全職員が生徒一人ひとりに関わることにより生徒との信頼関係を築くように努めている。また、行事やクラスの活動を通して、友だちのよい行いを見つけ、生徒同士でチケットを渡す取組を行うことで、生徒同士でよい点を認め合い、自己肯定感を高めることができるようになってきている。今後も継続的にやり、全生徒がチケットがもらえるように取り組む予定である。 10月末で、1684枚のチケットが渡されている。	
6	生徒の支援	・特別支援教育の充実を図る。	・特別支援コーディネーターを中心に教職員・支援員が連携を密にし、個々の専門性を高め個別の支援を充実させる。	・特別な支援を要する生徒が安心して充実した学校生活を送っている。	・特別支援学級19名、通常の学級での特別支援ニーズを持つ生徒について前年度からの情報をもとに個々の生徒の特性と有効な支援、よくない関わりについての表を準備した。年度当初からそれぞれの生徒に応じた支援ができるようになり、支援の充実につながる事ができた。しかし、不登校など二次障害に陥っている生徒もいる。	B
			・関係機関、専門家、保護者と連携し、個別支援を充実する。	・学校、家庭、地域で支援方針を共有し、一貫した支援を行い、関係機関と連携し、事例ごとに適切な支援方針を定め支援している。	・各担任を中心に家庭訪問、連絡帳、電話など家庭との連携を密に図っている。西備支援学校のコーディネーター、町の保健福祉課やスクールソーシャルワーカーとの情報交換や相談などを通して、関連機関との連携を図っており、必要に応じてケース会議を開いて支援の方向性を検討できた。保護者のアンケートや連絡帳でも教師の対応について肯定的な記述が見られ、概ね安心して学校生活を送れていると考えられる。	
			・特別支援教育に関する校内研修を研修計画の中に設定し、計画的に行っている。また、研修したことを全職員が実践している。	・特別支援教育に関する校内研修を研修計画の中に設定し、計画的に行っている。また、研修したことを全職員が実践している。	・特別支援教育に関する校内研修を研修計画の中に設定し、計画的に行っている。また、研修したことを全職員が実践している。	

分析・改善方策

<p>・電子黒板やデジタル教科書などのICTを取り入れた授業を行っている教員が増えている。今後も、新しくなったデジタル教科書をより効果的に使えるように、各教科での研修が必要である。</p> <p>・授業改善の成果として、グループ学習を意識して取り組んでいる教員が91%と多くなっている。しかし、授業の中で生徒が自分の考えを進んで発表している割合が減っているため、取組の工夫が必要である。</p> <p>・全国学力学習状況調査や岡山県学力学習状況調査の結果を受けて、夕学での全国学力学習状況調査の演習や発展問題を取り入れた授業展開を継続的に行う必要がある。</p> <p>・家庭学習の習慣づくりが本校の大きな課題になっている。今年度より「新生活ノート」を活用し、家庭での生活の見直し(プランづくり)に全学年で取り組むと同時に、町全体として取り組んでいる「家庭学習強化期間」とも連携して、家庭と協力して学習習慣の定着を図りたい。</p> <p>・定期的にQUアンケートを実施することで意識して学級での所属感や、望ましい人間関係を構築できるように取り組んでいる。今後も研修を重ね、有効に活用したい。</p> <p>・夏のボランティア活動や地域のボランティア活動へは延べ335人の生徒が参加し、ボランティア活動が学校全体の取組となってきている。</p> <p>・矢掛中学校の三つの誇り「あいさつができる」「掃除ができる」「時間を守る」は生徒会が中心になって意識的に活動している。しかし、三つの項目でポイントが下がっているため、教員も生徒共々、意識を高めて、指導を続けていきたい。</p> <p>・グッドビヘイビアチケットを教員からだけでなく、生徒同士でも渡せるようにしてお互いの良いところ認めるようにしている。その結果、学校行事や日々の生活の中での達成感や自己有用感を持つことができる生徒が増えている。今後もこの取組を続けていきたい。</p> <p>・中1ギャップの克服のため、年2回の中学校体験授業を行っている。また、心の教室や適応指導学級「ひまわりの家」とも連携を図り、不登校問題の改善に努めている。</p> <p>・特別支援学級に在籍する生徒だけでなく、通常学級に在籍している生徒の中にも支援を必要とする生徒の数も多くなっている。そのため、特別支援教育を校内研修の大きな柱の一つとしたい。</p>

学校関係者評価

1 総論(全体として)

- ・自己評価は妥当である。
- ・来年度に生かせる分析・改善方策になるよう、具体的で焦点化された対応策が求められる。
- ・総合的な学習の時間や地域活動は矢掛中学校の特色として誇れるものである。自信をもって学校が一丸となって持続発展されたい。
- ・落ち着いた学校生活ができており、部活動でも成果をあげている。

2 確かな学力

- ・ペアやグループ活動、ICTの活用はよくできているが「手慣れた」とは言えない教員も見られる。校内研修や自治体主催の研修に参加する等の研修計画を明確にされたい。
- ・日々の生活ノートの活用ができており、教員からのコメントも書かれている。生徒の学習習慣を身につける取組として継続を期待する。

3 支え合う生徒

- ・素晴らしい取組をおこなっているので、学校は自信をもってこれからも教育活動を継続してほしい。

4 生徒の支援

- ・若手教員が増加する中で保護者との関係づくり等の研修も必要である。
- ・特別支援教育について「概ね安心して学校生活がおくれていると考えられる」と分析しているが、中には批判的な回答が複数ある。学校全体でフィードバックの方法を検討されたい。
- ・「Good Behavior チケット」の取組は素晴らしく効果が表れている。生徒の自己肯定感が高まると同時に、生徒同士でチケットを渡し合うことで互いに認め合う風潮が生まれている。積極的な生徒支援の方策として、さらに定着させてほしい。
- ・相談など個別支援を充実する取組はできている。スクールカウンセラーへの相談件数79件は積極的な支援のあらわれとして肯定的に受け止めたい。今後も小さな事案を含め粘り強く個別支援を継続してほしい。



来年度の重点・方針

1 確かな学力を身につける。

- ①学力の向上を目指した授業改善を図る。
 - ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、授業改善に取り組む。
 - ・ペアやグループ活動による学び合い学習を取り入れ、相互に関わり合える場面を設定し、協働して課題を解決することで活用力を育む。
 - ・各教科の授業で、電子黒板や教材提示装置等のICT機器や指導用デジタル教科書を効果的に活用できるように研修を行う。
- ②基礎基本の徹底と学習習慣の確立を図る。
 - ・帰りの会でのドリル学習(夕学)を充実する。
 - ・長期休業中やテスト週間、部活動がない日の放課後に個別指導の機会を設定する。
 - ・「生活ノート(矢掛版)」を活用し、帰りの会で課題と必要時間を確認するとともに自主学習を含めた家庭学習の計画を立てることを通して、自己管理能力を育む。
 - ・家庭と協力して、年3回の矢掛町家庭学習強化期間の取組を充実させる。また、保護者が適切に支援できるように、学校だよりや学年だよりで啓発していく。
- ③総合的な学習の時間を系統性のある取組にする。
 - ・地域の資源を活用する中で、1学年は地域を学ぶ、2学年は地域で学ぶ、3学年は地域・社会に貢献するという観点で、系統的に取り組む。

2 支え合える、認め合える、繋がり合える集団づくりをする。

- ①良好な学級の雰囲気づくりに努め、生徒の自己肯定感を高める。
 - ・学び合い学習を通して、聴き合える、伝え合える、繋がり合える学級づくりに取り組む。
 - ・学校行事、学年行事、学級活動などを通して、認め合える、繋がり合える学級づくりに取り組む。
 - ・「Good Behavior」チケットの配付や期待される行動の明示など、SWPBIS(School-Wide Positive Behavioral Interventions and Supports:学校全体における積極的行動介入および支援)の取組を推進し、生徒の自己肯定感を高めるとともに、生徒や保護者との信頼関係を構築する。
 - ・年3回のQUアンケートを活用し、学級集団の状態や変容を把握する。
- ②社会的実践力が身につくようにする。
 - ・生徒会や専門委員会の活動を通して、矢掛中学校三つの誇りが実践できるようにする。
 - ・情報モラル教育を充実させ、情報端末(スマートフォンも含む)を、正しい判断力を持って使えるようにする。
 - ・「地域を支える学校」として、生徒が主体的に地域の活動に参加するよう支援し、参加の状況を積極的に公開する。

3 学校生活に適応できるように個別的な支援を充実する。

- ①学校に適応しにくい生徒への支援を充実する。
 - ・不登校の未然防止に向けて、出前授業や体験授業、相互授業参観など、小・中連携の効果的な取組を行う。
 - ・スクールカウンセラーや外部の関係機関との連携を一層密にする。必要に応じて、ケース会議を行い、情報共有と支援の方向性について協議する。
 - ・生徒指導上の課題の未然防止に向けて、学校アドバイザーの活用や関係機関との連携を密にする。防犯教室や講演会を行い、規律のある落ち着いた学校づくりに取り組む。
 - ・学校生活アンケートを原則として毎月行ったり、生活ノートや班長会を活用して生徒に関する情報を集めたりすることで、いじめや不適応の早期発見、早期対応に努める。
- ②特別支援教育の充実を図る。
 - ・特別支援教育コーディネーターを中心に、教職員や支援員が密に情報を共有し、個別の支援を充実させる。
 - ・関係機関や専門家、保護者と連携し、個別支援を充実させる。
 - ・特別支援教育に関する校内研修を経験年数研修と連動させて計画的に行う。